

## 例題

【問1】 厚生労働省の食中毒統計に関する記述として、誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 腸炎ビブリオによる食中毒件数は20年前と比較して減少傾向である。
- (2) アニサキスによる食中毒患者数は全ての食中毒のなかでもっとも多い。
- (3) ノロウイルスによる食中毒患者数はウイルス性食中毒のなかでもっとも多い。
- (4) 自然毒による食中毒により死者が発生したことがある。

【問2】 「秋田県ふぐ処理者の認定に関する取扱い要綱」の目的に関する次の記述のうち、( )の中に入る語句として、正しいものを一つ選びなさい。

この要綱は、秋田県ふぐ処理者認定試験について必要な事項を定め、正しい知識と技術を備えたふぐ処理者を選抜することにより、ふぐによる( )することを目的とする。

- (1) 健康被害の拡大を防止
- (2) 食中毒の発生を防止
- (3) 食品産業の振興に資
- (4) 食中毒の危険性を啓発

【問3】 次のうち、ふぐの種類と可食部位の組み合わせとして、誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) マ フ グ——筋肉、精巢
- (2) ゴ マ フ グ——筋肉、精巢
- (3) ク サ フ グ——筋肉、皮
- (4) ハリセンボン——筋肉、皮、精巢

【問4】 次のうち、凍結ふぐの取扱いに関する記述として、正しいものを1つ選びなさい。

- (1) ふぐの凍結はできる限り新鮮で漁獲したそのまま未処理の状態で行うこと。
- (2) 凍結後のふぐの保管はマイナス15℃以下で行い、保管中は温度の変動を少なくする。
- (3) ふぐの解凍は流水等を用いて速やかに行い、解凍後は直ちに処理に供する。
- (4) 解凍したふぐの処理をすぐに行わない場合は、速やかに再凍結を行う。